

# くるはら

2008(平成20)年1月30日

第 42 号

発行 来原コミュニティ  
づくり連絡協議会


編集 広 報 部



来原「お花づくり」




来原「お花づくり」



# 新年のごあいさつ



来原コ連協会長 平野 弘則

来原地域の皆様、明けましておめでとございます。

健康やかに新しい年を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。

来原コ連協も昭和53年9月発足し、今年で30年目を迎えようとしております。この間、地域の皆さんに呼びかけてきた。住んでみたい、住んでよかった来原の郷。づくり活動にご協力いただき感謝いたします。さてこの30年間多くの皆さんの指導とご協力により、真に安心して暮らせる地域づくりにもむけ模索し取り組んで来ましたが、時代の変遷と併せ課題も大きく変わつたことを痛切に感じています。特に地域の基幹産業で

ある農業が食生活の考え方の多様化と併せ国際化の大波を受け大変厳しくなっていること、高宮町内でも少子高齢化が進み昭和50年代の高齢化率20%から今日の42%を越えるとも言われる現状

等々地域農業の後継者問題をはじめ集落機能の低下が危惧され、地域社会が大変厳しい現状です。昔は何もなくとも人と人との継がりがあり、ぬくもりのある地域と昔を懐かしむ声も多く聞きます。

経済社会の発展により考え方がモノ・カネに偏り、人に対する思いやり心と心を継ぐ地域社会が希薄になつたとも言われています。

私たちの住むこの来原

地域もご多分にもれず過疎化、高齢化が問題視されますが、正に見方、考え方を変えれば、多くの経験と知恵をもつ高齢者こそが社会の主役という時代かも知れません。

真に来原こそ自然豊かな立地条件のなか、今まで地域活動で培つたことを踏まえ、自分たちが人間らしく生き暮らしている基盤をそなえている地域と確信し、そのなかでぬくもりのある心豊かな地域社会にむけ、お互

いに模索していくことの大切さを痛感しています。これからも安心して住める地域づくりを共通課題として、人と人の継がりを大切に声をかけ合い絆を大きく強くし、お互いが心身共に毎日健全な生活を送ることが地域活動の一環との認識のもと頑張りたいと思っております。

今年も引き続き来原コ連協活動にご協力、ご指導をお願い致し、新年のごあいさつといたします。

# 年頭のごあいさつ



安芸高田市長 児玉 更太郎

来原地区の皆様、あけましておめでとございます。

安芸高田市は本年三月一日を迎えると満四年になります。

合併前に二年かけて協議した合併建設計画を、

この四年の間に一つひとつ、実現に向けて努力してまいりました。

合併建設計画の大きなものが三つありました。この一番大きなものが、「第二庁舎、総合文化保健施設」でありました。

この施設は昨年十一月三日に落成式を行うことができました。

第二庁舎につきましては、今まで本庁に勤務する職員が、吉田町内の四ヶ所に分散していたものが、ようやく一ヶ所に集結でき、市民の皆様の便利や事務の効率化が計られたものと思っております。

総合文化保健福祉施設については、この完成により、市内の文化活動、福祉活動が一層充実するものと思っております。

ソフトの面では、市内にある32の地域振興会が活発な活動を行っていただき、心豊かな、連帯感のある、コミュニティの充実した地域づくりに頑張ってもらっています。

このことが評価され、昨年三月全国一八二〇の市町村の中から選ばれて、毎日新聞社から、地方自治大賞優秀賞をいただきました。全国で三市町村の受賞でした。今からも来原コ連協の益々のご活躍を祈ります。

# 市議会レポート

来原地区  
市議会議員

## これからの安芸高田市

塚本 近

新年明けましておめで  
とございます。

皆さま方には、ご健勝  
で、初春をお迎えのこと  
とお慶び申し上げます。

安芸高田市が誕生して

四年が過ぎようとしてい  
ます。これから地に足を  
しっかりとつけ、進むべき  
道を見据えていく時期と  
なりました。年末より原  
油の高騰により日本経済  
は先行不透明な時期とな  
り、すべての物価上昇が  
考えられ、とりわけ農村  
を取り巻く環境は非常に  
厳しい事になります。昨  
年広島県は、地域営農集  
団、認定農業者等への担  
い手中心の施策を講じて  
まいりましたが、一方で  
小規模農家への不安は一

層深まるばかりで、全生  
産者が希望がもて活力あ  
る農業施策を望むもので  
す。

地方分権改革のもと、

住民に身近な行政サービ  
スは、住民に身近な市が  
担当する事により県から  
市へと移行しています。  
行政においても「分権の  
受け皿」となる専門的な  
体制づくりが求められて  
います。厳しい財政状況  
という現実がありますが、  
このときこそ、市民・地  
域・行政が一体となって  
この時期を乗り切ってい  
かねばなりません。  
児玉市長は二十八年間  
行政の指導者として地域  
発展にご尽力いただきま  
したが、今年四月には勇

退されます。

今日まで皆さんとの対  
話を中心に私達をリード  
され、そのことが、国・  
県でも大きく評価されて  
おります。

今日までのご功績に感  
謝し、自慢の恵まれた自  
然環境と歴史や伝統を守

## 心を大事にした地域づくり

秋田 雅朝

来原地域の皆様、新年  
おめでとございます。  
健やかに新年をお迎えの  
こととお慶び申しあげま  
す。

本市も、まちづくりの  
指針となる「総合計画」  
を基に、「人輝く・安芸高  
田」に向かう施策展開が  
図られ、本年三月で満四  
年が経過します。

この間の様々な取り組  
みを踏まえ、本年は節目  
の年だと私は認識してい  
ます。

昨年は、市民の視点に

りながら平成20年、新し  
い地域づくりを創造し、  
より魅力と個性のあるま  
ちづくりを皆様とともに  
進めていきたいと考えて  
おります。最後になりま  
したが、皆様方のご健康、  
ご多幸を祈念いたします。

来原児童クラブとして開  
設され、地域の皆様のご  
協力のもとに運営されて  
います。

将来を担う来原の児童  
生徒は、「朝の声かけ」・

地域の皆様に支えられな  
がら、学校との連携によ  
り、健全に育っている

私は思います。それは、

昨年の全国学習状況調査

の本市の結果で、「近所

の人へ挨拶する」等、地

域との係わりの質問では、  
国・県と比較すると高い  
肯定的結果であったこと  
からでも判断できます。

このように「心を大事

にした地域の構築」には、

今まで同様、来原コ連協

を中心とした地域全員で  
の取り組みによる「住ん  
で良かった来原の郷づく

り」が必要で、その為の  
議員としてのあり方を再  
認識し、皆様のご意見を

頂き、皆様と共にまちづ  
くりを進めたいと思っ  
ています。

「みんながいきいき笑顔  
で助け合えるまち」を目  
指し、「健康あきたかた  
21」が策定されました。  
また、来原コ連協で取り  
組まれた児童サロンも、

# 新年明けまして

## おめでとーうございませう



安芸高田市立来原小学校校長 平 畝 力



新しい年が明けました。おめでとーうございませう。本年が皆様にとつて、良い年でありますように願つております。

今年のお正月も、「福寿会」の皆様立派な門松を作つていただきませう。本当にありがとーうございませう。

今年の干支は、戊子（つちのえね）。「戊」は、万物を育む土が集まつた山や丘を象徴するとーうです。また、「戊」の字は「茂る」意味で、草木が大地

に繁盛している様子を表しているとーうです。

「子」は、十二支の一番目です。「子」の字は「ふえる」意味で、種子の中に新しい生命が芽生える様子を表しているとーうです。

今年、暦の上ではすべてが始まりの年で、新しい生命が芽生え、増え、繁盛していく年といえるよつです。この年にちなみ、来原小学校でも、これまでの教育活動一つ一つを見直し、新たな気持ちで取り組んでいきたいと思ひませう。

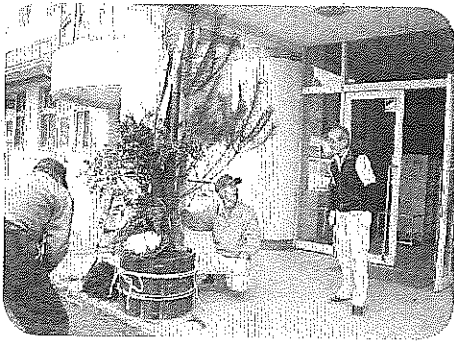
地域の皆様には、平素より本校教育活動にご理解ご支援をいただき、深く感謝してあります。

今年も『地域学習』では、地域の皆様の協力のものと、児童が地域に誇りをもち、自分自身にも誇りをもてるよつ取り組んでいきます。

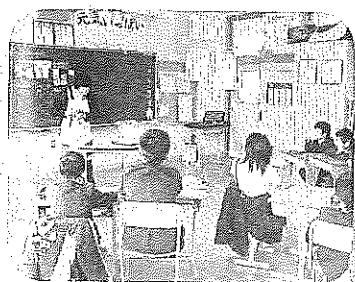
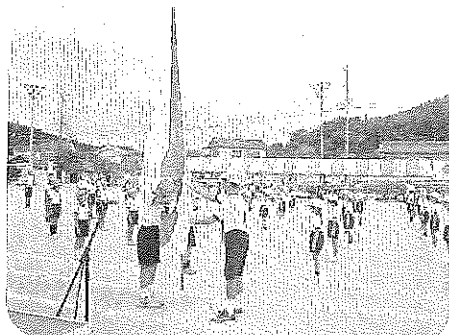
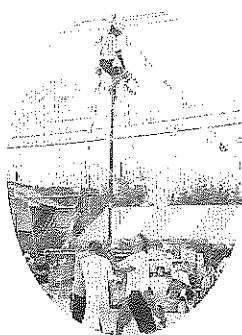
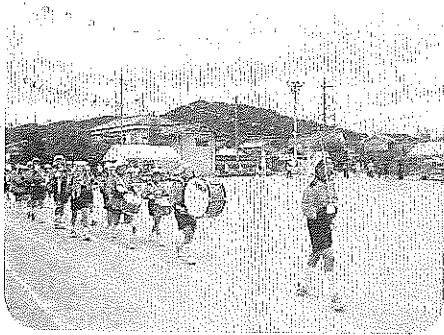
また、「ことばの教育」「キャリア教育」を生かした「分かる授業づくり」を継続し、授業が分かることと児童に自信をつけさせたいと思ひませう。

家庭・学校・地域が力を合わせ、児童を育み、将来生きてはたらく力をつけさせたいと思ひませう。

ご協力よろしくお願ひいたします。



### 二学期の行事紹介 運動会



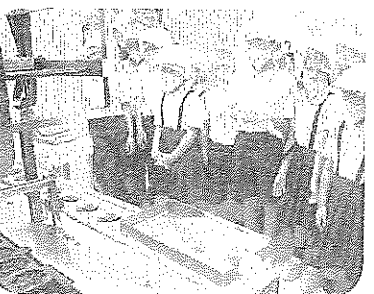
食育



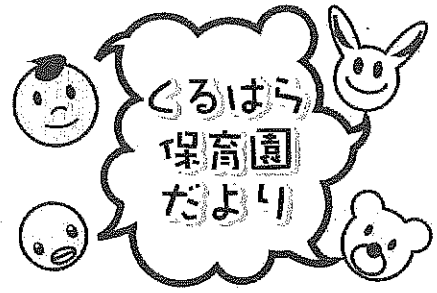
避難訓練



PTA環境整備作業



社会見学

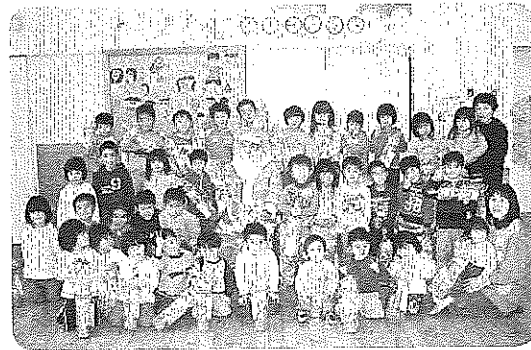


あけましておめでとござい  
います。

地域の皆様の御支援をいた  
だき、くるはら保育園の子ど  
もたちは、にぎやかなお正月  
を迎えることができました。  
12月は発表会・クリスマス  
ス・もちつき会・門松作りと  
大変お世話になりました。

発表会までの1か月間、う  
た・劇などそれぞれの年齢に  
応じて取り組みました。特に  
あおぐみは保育園で最後の発  
表会になるので、「見に来て  
ください」の気持ちで練習し  
ようと話し合い、みんなでせ  
りふや動きを考え、小道具を  
作りました。でも役を決める  
とき、自分がなりたい役にな  
れなくて、嫌々していたので  
すが、練習をするうちにみん  
なの注目を浴び、のりのりで  
するようになりました。

誰でもそうですが、みんな  
の嫌がることや自信のないこ  
とはしたくないものです。で



も、勇気をだしてチャレンジ  
したり、支えてもらったり、  
褒めてもらったりして、やり  
遂げたときの達成感は何物に  
もかえがたいものです。何歳  
になってもチャレンジ精神を  
持ち続けたいものです。  
吉川のおじいちゃん(92  
歳)が、子どもたちへプレゼ  
ントを持って保育園に来てく  
ださいました。楽しみに待っ  
ていた子どもたち。手品をさ  
れ、1本の花から2本、3本  
と増えると、「わくすこい！」  
と拍手。箱の中から次つきと  
キャラメルの箱が出てくると  
「すこい、すこい！」と大  
拍手でした。「おじいちゃん  
ありがとう」と握手した手  
は、しわがいつぱい。顔はお  
だやか。「どうかいつまでも  
お元気で！」と言つと「今年  
が最後だと毎年思うんよ」と

話しておられました。「風邪  
をひかんように、元気でおり  
んさいよ」「お家の人や先生  
の言うことをきいて、ええ子  
になりんさいよ」と、子ども  
たちにお話しされました。何  
十年も続く吉川のおじいちゃ  
んのやさしさ、本当にありが  
たいことです。保護者の方で  
「私も、あの手品覚えていま  
す」と、言われた方が沢山お  
られました。

餅つき会には、老人会の方  
と保護者会の役員さんにお  
手伝いいただきました。「替  
わりばんこでつこうの」と  
子どもたちの手を持つてつか  
れるのを見ていた子どもたち  
が、「よいしょー」と、つか  
れるたびにピョンピョンと跳  
びはねて応援していました。  
「やれ、しゅわい。替わつて  
やあ」と、交代されるおじい  
ちゃん。「今では白と杵で餅  
をつくのには珍しいよね。」と  
言いながら、餅を返したり、  
つきあがった餅を手際よく  
ちぎってきれいなもみ、「こ  
うすれば、きれいなもめるん  
よ」と教えてくださいました  
が、「やわらかうい」「気持ち  
いい」と子どもたち。色々  
な形になった餅、顔の様に  
なった餅を見て笑っておられ  
たおばあちゃん。つきあがっ  
た餅を早速きなこ餅、ぜんざ  
い、にして、役員さんたちに  
作ってもらった酢の物と一緒に  
いただきました。心あたた

まる交流と美味しい餅で身も  
心もいっぱいになりました。  
門松作りでは、材料の準備  
や組み立てなど、すべて老人  
会のおじいちゃんたちがして  
くださいました。できること  
は少しでも手伝おうと子ども  
たちは土を運んだり、門松が  
出来る様子を見させていただ  
きました。門松を作れる方が  
健在なことはすこいことです。  
子どもたちが大きくなつて思  
い出してくれるといいなと、



思います。立派な門松を立て  
ていただき「福の神」が訪れ  
てくださることでしよう。  
行事を通じて貴重な経験を  
しますが、毎日の生活の中にも  
貴重な経験はたくさんあり  
ます。朝、全園児が集まり欠  
席調べをします。並んで座り  
ますが、座る場所をめぐつて  
けんかがあります。2歳児が  
けんかをして泣き始めると、  
その子の周りに園児が集まり  
5歳児がそばに行き「何で泣  
きようん?」「なんでたた  
くん?」「たたいたら、いた  
いでしょー」「たたかれた  
人の気持ちかわからんの!」  
「たたくんは...として最低!」  
「ちゃん、ごめんを言つて」  
などと言ひ聞かせ、最後には  
けんかをした2人が照れ笑い  
し、仲直りしました。保育者  
は全員の口をはさもうかと  
見守っていました。口をは  
さむ余地はありませんでした。  
同じ年齢の子どうし、大きい  
子から小さい子へ、小さい子  
から大きい子へと刺激をしあ  
いながら、嬉しい事ばかりで  
なく、ときには悲しい思いを  
しながら成長していくことを  
実感しました。限らない可能  
性を秘めたひとり一人の子ど  
もたちに、いろいろな経験を  
させてあげるためにも、地域  
の皆様、今年もよろしくお願  
いいたします。

くるはら保育園  
竹坂美智恵



たかみや人権文芸賞  
入選作品より  
紹介します

第十九回「たかみや人権文芸賞」の発表と表彰が、昨年の十二月十四日に行われました。来原小学校からは、次の三人と一団体の作品が表彰を受けられました。

詩の部

特選

☆安芸高田市市長賞

「いのち」

来原小学校 一年生

河内 真由

せんせいのおなかをさわると  
あつたかいかんじでした  
みみをあてると  
どくどくおとがしていたよ  
せんせいのおなかには  
大きないのちが  
はいつているんだね

感想文の部

入選

「ちいちゃんへ」

来原小学校 三年生

泉 息吹

わたしは「ちいちゃんのかげおくり」を読んでせんそうはこわいなと思いました。食べ物もなんにもなくておなかですいて、お母さんやお兄ちゃんちいちゃんとはぐれて、お父さんはせんそうに行つていなくて、とってもかわいそうだと思います。わたしが生まれてからは、せんそうがなくてとてもよかったです。わたしが大人になつた時、せんそうのない、へいわなせかいだつたらいいなと思います。はじめからせんそうなんかなかったらいいのにと思いました。ちいちゃんを助けてくれた知らないおじさんは、とってもやさしい人だと思いました。  
お母さんやお兄ちゃんがないほうくうこうでねたのは、とってもさみしかったです。うがなつた時、ちいちゃんはずっともわかつたと思います。わたしが大人になつても幸せなせかいだといいなと思っています。

入選

「道徳で考えたこと」

来原小学校 五年生

山縣 夏末

十月三十一日に道徳で、「オトちゃんルール」は「当たり前」のルールを読みました。乙武さんは、先天性四肢切断という両手両足がない状態で生まれました。「しよがい者が学校生活をふりかえつた時、その多くが「最も苦痛だった時間は、休み時間だった。」と答える。なぜかという授業中は四十五分から五十分席にすわつていたらすぐに終わる。けれども休み時間はクラスメートが楽しそうに遊んでいると、仲間に入つていけない自分は、より強いこどくを感じる。」と文章の中にかかれていました。私はしよがい者ではないけれど、みんなが楽しく遊んでいるすがたを見ると一人ぼっちの私は悲しくなるのが分かります。  
しかし乙武さんは一番楽しみにしている時間は、休み時間と答えました。私はなにをして遊んでいたのだから不思議に思いました。読み進めていくとそれは野球、サツ

カー、ドッジボールを遊んでいたと言ふことが分かりました。特に野球の好きだった乙武さんは、バットをわきの下にはさみ回転させ、内野のうしろの方まで飛んだら「オトちゃん」ルールでホームランとなる。だからと言ってピッチャーをぬけたらホームランでもないというわけでもない。ということも分かりました。

乙武さんはみんなと同じように、クラスメートの一人としてけんかをするのも当たり前、みんなと遊ぶのも当たり前、ボクもボクでそのことを「当たり前」と受け止めていたらしいです。

私は、人をけいべつしたり、特別あつかいしないで、当たり前前にすることが大切なんだと思ひました。



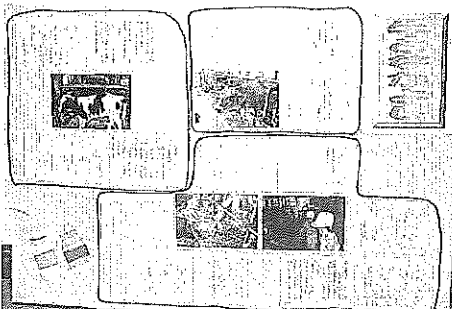
共同作品の部

特別賞

「牛となかよし」

来原小学校 二年生の  
みなさん

- |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 泉  | 加藤 | 上川 | 黒田 | 佐々木 | 清水 | 寺尾 | 出張 | 遠野 | 遠野 | 中崎 | 中崎 | 丸山 | 宮本 | 矢野 |
| 葉  | 夏  | 泰  | 奈  | 央   | 介  | 夏  | 希  | 希  | 希  | 菜  | 菜  | 人  | 也  | 磨  |
| 月  | 樹  | 海  | 生  | 央   | 介  | 夏  | 希  | 希  | 希  | 菜  | 菜  | 人  | 也  | 磨  |
| さん | さん | さん | さん | さん  | さん | さん | さん | さん | さん | さん | さん | さん | さん | さん |



山根牧場での野外授業の活動記録

ローストビーフ派遣事業に参加して

原田・東城 山根 博文

参加するに当たって、どうしようか...という迷いはあったのですが、平野会長の推薦を頂くことができ、思い切って平成19年度安芸高田市民ニューシールド(NZ)派遣事業に参加させて頂きました。

今回の派遣日程は、11月17日(土)〜23日(金)の7日間。派遣メンバーは総勢8名。高宮からは、川根振興協議会の辻駒健二さん、熊高慎二さん、船木振興会の川本純弘さんの計4名。そのほか、八千代から田岡幸子さん、甲田から入本サチ子さんが参加され、団長に政策推進部の田丸部長さん、事務局として高宮教育分室の吉川さんに引率して頂きました。

初日は、真新しい「クリスタルアーシヨ」で、土曜日もかかわらず、見玉市長さんをはじめ、大勢の方に出発式をして頂き、バスで一路岡山へ。途中、各自に航空券が配られ、いよいよNZへの想い、NZの国土は日本の約四分の三、人口はわずか400万人余り。時差は夏時間で日本より4時間進んでおり、南半球なので今は初夏とのこと、半袖も用意して好天に恵まれる

ことを切望しながら日本航空と共同運航のNZ航空の機内へ。フライト時間は約11時間。初めての機内泊は、リクライニングもあまりできず、座席ごとにあるテレビの照明や人の動きなどもあり、なかなか眠れない夜。でも、早朝眼下に見えた景色は、思いがけず冠雪した山々。とても綺麗な光景でした。飛行機は程なくNZの南島最大の都市、クライストチャーチ国際空港に着陸。空港には安芸高田市のNZ連絡事務所の早川純代さんに出迎えて頂き、いよいよNZの旅の始まりです。

ホームステイ先は、6年前我が家に夫婦で滞在されたウオレンさん宅。奥さんのルースさんとは、妻の温子がメル友達。親戚を訪れる気持ちで気軽に出発することができました。

ウオレンさん宅は大きな池と庭に囲まれた2階建て。1階にはリビングのほかに、朝食を食べるダイニングキッチン、食前酒を飲みながら飲談できるテラスに面した部屋、それにメインの食堂が別にある、ゆったりとくつろいだ気分です。今回の主な日程は、アート

ギャラリーの訪問、老人ホームの視察、ダーフィールド高校の訪問、そして新しくできたローストン庁舎にて、新町長のケルビン町長の表敬訪問などでした。アートギャラリーは、ルースさんが責任者で10年前から開設されているとのこと、目的は地域の人の芸術作品の展示やコンサートなどを含めた交流の場としても利用されており、芸術家の発表の場所兼交流場。運営には80人のボランティアの方がおられ、芸術家に奨学金を出したり、賞もあげているとのこと、この地域に住む芸術家も増えており、やる気のある芸術家を育てるとも良いシステムだと感じました。

老人ホーム視察では、入所料金の話がありました。NZでは一般的に入所者から3段階で料金が取られており、お金の入所者は全額負担、中間の人は入所者と政府が半分半分、お金のない人は政府が全額支払うとのこと、もちろん政府がチェックするようですが、消費税が12・5%のNZだからできることなのか...。

また、入所者に対し高齢者とか老人という言葉を避けて、シニアシブズン(大先輩)と呼んでいるとのこと、思いやりのすばらしさに感動しました。ダーフィールド高校では授業風景など見学しました。手前味噌になりますが、アリン

ン校長から9年前に交流事業で我が家にホームステイしたベン君の話がありました。ベンは大人になって、今夏に再び我が家を訪れてくれ、この夏には石見銀山などと一緒に旅行したり料理をしたりして、子ども達とも旧交を温めていました。ベンがそのことを話したらしく、そういう関係が続いていることを誉めて頂きました。

真新しいローストン庁舎は、また、引越しをしたばかりで開業前でしたが、ケルビン町長自らが案内して頂き、机は広く周りのスペースもたっぷり立派な庁舎でした。ケルビン町長を表敬訪問後、食前酒を頂き、会食をしながら公式のセレモニーがありました。なごやかに驚きました。なごやかに驚きました。なごやかに驚きました。なごやかに驚きました。

公式行事のほかに、高原列車に乗ってアーサーズ・パスに行ったり、植物公園、博物館、南極センター、ウイロバンク動物園などにも行きました。特に印象に残っているのは植物公園で、たくさん大きな木や気になる木に出会い、木立の中を散歩するだけで大いにエネルギーを貰ったことです。また、全員でホテル近くのハグレイ公園に行き、北半球では見られないザザンク

ロス(南十字星)を見られたのは、感動ものでした。

今回の旅行で改めて感じたことは、NZの人は、とてもおやかで人懐っこく好意的であることでした。これからも国際交流を続けていきたいと思った私にとつて、語学力を高めることはもちろん必要なことですが、お互いに深く理解しあうためには、Communication(考えること)、Action(行動すること)、Contention(継続すること)の三つの言葉を座右の銘にして頑張りたいと思った次第です。

終わりにになりましたが、今回の派遣事業に参加させて頂き、心から感謝しております。これからもセルウィン町との交流が深い絆で結ばれ、益々発展することを祈念するともに、微力ですが今回の体験が少しでも地域に還元できるように精進したいと思っております。本当にありがとうございます。



# ニュージーランド派遣事業に参加して

高宮中学校2年 岩崎 千穂

平成19年8月9日、夏真っ盛りの日本を出発して、ニュージーランドへ行きました。生まれ初めて乗る飛行機あの加速は最高でした。タイタンよりも早かった。途中シンガポールで乗り換えて、8月11日にクライストチャーチ国際空港に到着しました。空港をでたとたん、やっぱり南半球のニュージーランドは寒かった。日本はあんなに暑かったのに「甘かった、もう少し冬服を持ってくるべきだった。」

宿泊はほとんどがホームステイでした。ホストファミリーと対面するまでは、どんな人だろうかととても不安でしたが、会ったとたん不安は完全に消えました。とてもやさしそうなお母さんで安心しました。家はけっこう大きく、猫が飼われていました。

寒いので温かい風呂に入りがかったけど、シャワーしかありませんでした。ちょっと残念でしたが、水がとても少ない国なので、大切にしているのだそうです。

主食はポテトで、朝はパンケーキでした。とても量が多いので食べるのが大変でした。ホストファミリーの家か

ら、ダーフィールドハイスクールへの通学は、スクールバスでした。学校に着くと高宮中学校のみんなに会えるのが楽しみでした。ダンフィールドハイスクールには日本人留学生もたくさんいました。ニュージーランドではいろんなところへ遊びに行きました。

最初は農場での乗馬体験(馬は可愛い)、シエツトボート体験はすごくスリルがありました。

次にポーターハイツスキー場です。何年か滑っていたので、余裕で滑ることができました。一番高いところに登り、そこから見た景色はすごくきれいでした。

その他、エイボン川でのカヤッキングなどたくさん行きましたが、初めての経験ばかりで戸惑ったり、感動することばかりでした。

10日間の滞在でしたが、楽しいことも、そうでないことも日本ではできない貴重な体験ができてとても良かったです。



初めての海外でしたが、やっぱり日本はいい国だとつくづく思いました。

# ニュージーランド生活で学んだこと

高宮中学校2年生 道沖 真奈

平成19年8月10日〜21日まで私たち派遣団員12名はニュージーランドに行きました。

ニュージーランドに行ったら、一番最初に「自然いっぱいなところだな」と思いました。どこを見ても広い草原が広がり、羊や馬がたくさんいました。ずっと見ていても、飽きない風景ばかりでした。

今回私たちはホームステイをしました。私は、コッテル家にホームステイしました。ウィリアム、シモネッタ、オクサーナ、サーシャ、ニコラス、れいか、のとてもにぎやかな家族でした。でも、みんな優しく、難しい英語はゆっくり言ったり、シエスチャーなどを使って話してくれたりしてくれました。子供達とも、近くの川や庭で一緒に遊びました。ホストファミリーのウィリアムは、夜に望遠鏡で星を見せてくれました。初めての体験だったので、すごくうれしかったです。ホストマザーのシモネッタの作った料理はすごくおいしかったです。

派遣事業に参加させていだいて、本当にありがとうございました。

です。チキン、パスタ、ピザ、ハンバーグ、アップルパイ。でも、ニュージーランドで食べたお米はあまりおいしくなかったです。私にとって、最高のホームステイ生活でした。

私たちは、ニュージーランドの「ダーフィールドハイスクール」に通いました。私たちはダーフィールドハイスクールの生徒と一緒に授業を受けました。生徒一人一人が授業を真剣に受けていました。電子辞書を片手に必死に自己紹介や会話をしました。その時、自分の英語が通じたときはこれまで味わったことのないうれしさでいっぱいでした。

ニュージーランド生活の中で、スキーや農場見学もしました。スキーでは美しい自然を眺めながら楽しめました。農場見学では、羊やアルパカとしっかり触れ合うことができました。最後に羊の毛がりをしました。初めての体験でドキドキでした。どの体験もニュージーランドのすばらしさを肌で感じることはかりで



した。ニュージーランド生活で学んだことは、「言葉が通じなくても、身振り手振りだけで心は通じる」ということです。たとえ上手に話せなくても、「伝えよう」という気持ちがあれば必ず相手に伝わります。誰に話す時も、「伝えよう」という気持ちを持つことがなによりも大切だと改めて感じました。また、機会があればもう一度ニュージーランドに行きたいと思っています。

私は今回ニュージーランドに行つてよかったと思います。こんなすばらしい体験ができたのは、行かせてくれた家族、ホストファミリーなど私たちを支えてくださった方々のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。



# 来女木客祭り

勤労感謝の日である11月23日、『第19回来女木客祭り』のイベントが来女木公民館で盛大に行われました。来女木ひまわり会主催の農産物品評会やステージ発表、来女木神楽団による神楽の公演がその主な内容でした。

品評会には、33戸の家庭から141件の農産物や加工食品が出品されました。ステージではひなげし会による大正琴の演奏に始まり、子ども会による踊り、保育園児とその保護者による踊り、老人会とサロン会による踊り、来女木春霜会と春風館による剣道のクラブ発表、女性部の踊りと続き、女性部の踊りと続き、成果の現れた素晴らしい発表でした。ビンゴゲームや農産物品評会の結果発表と表彰、そして農産物の競売と来場者も参加

する内容に、会場も大いに沸いていました。

続いて期待の来女木神楽団・来女木子ども神楽同好会による神楽が始まりました。途中にあった商工会と神楽団による福まきを含めて5つの演目があり、いずれも大変喜ばれ多くの拍手が寄せられていました。

屋外で行われた焼きそばやたこ焼き・うどん等のバザーも繁盛して完売していました。

久しぶりに来てみたが、とても楽しかったと話される町外からのお客様もあり、満員の会場は明るい顔と熱気に溢れていました。楽しい祭りにしようという思いで関係してくださった総ての皆様のご協力に深く感謝しております。

児玉 征之助

## 地域の話題

来原地区には正光坊真行寺、正明寺と浄土真宗の3ヶ寺があり、正明寺では長らく住職不在で護持されていましたが、昨年10月21日第13代住職として丹後眺城氏が正明寺を継がれ住職継職奉告慶讃法要が盛大に営まれました。



この行事の一環として雅児行列が行われ

したが、当地域では40数年振りの行事とか、来原地域を中心に有縁の子ども85名の参列で賑やかに終わりました。雅児行列に参列した子ども達も先々成人、社会人としてこの地域を離れた時、地域での思い出として、この来原、ふる里を想って欲しいと感じた一日でした。

又13代正明寺住職を継職された眺城氏は「出来るだけ地域の皆さんと接する機会をもつて浄土真宗のみ教

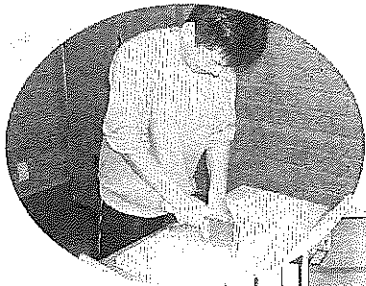
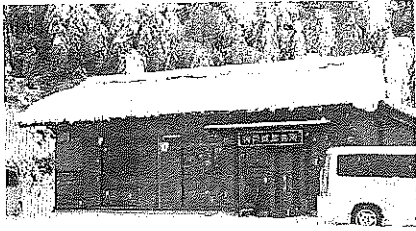


えを共に聴かせてもらい、ご法儀が広まるように勤めることは勿論のこと、人生に生き甲斐を持てるためなら何でも有りきで行きたいと思いません」と語っておられました。

# シリーズ 地域集落の紹介

## 『かん城集落』

宍戸城集落は現在16戸。当然のことながら高齢化もすすんでいますが、若い後継者もいて、皆で集落を盛り上げています。平成13年に集会所の建て替えを行い、毎年28日を常会の日と決めて、話し合いや情報交換をしています。昨年は集落のスローガンを話し合い、「考えよう 語ろう 宍戸城の未来」と決めて、現在集会所に掲げています。農業・農村を取り巻く環境が厳しい中、皆で知恵をしぼり、汗をかきながら未来でつないでいこうという気持ちで込められています。



転作で始めたそばを自分たちで打って食べてみよう、と数年前から取り組んでいましたが、平成18年からは、12月31日の大晦日に、若い者が集まってそばを打ち、集落の全戸に食べてもらおうという取り組みへと発展しました。昨年には、集落でも道具を一式そろえてもらい、お客さん分も含め、約70人分のそばを打ちました。「かたい」とか「太い」とかの注文はあるものの、概ね「おいしい」との感想をもらい、一同ほっとしているところでは。

これからも、こうした地道な活動を続けながら、元気な宍戸城を創っていききたいと思っています。

# 敬老会を終えて



十月十四日(日)、来原小学校体育館において、来原コミュニティ連絡協議会主催の敬老会が開催されました。今年も昨年度に引き続き、農繁期を避けて一ヶ月遅れの開催とさせていただきます。

今年度の、来原地区における最高齢者は、細河内の菅原アヤ子さんと仁王丸の山本源一さんのお二人で、百一歳になられます。又、向原の小丸キミヨさんが百歳です。75歳以上の敬老対象者は三百十五人で、内男性は百十九人、女

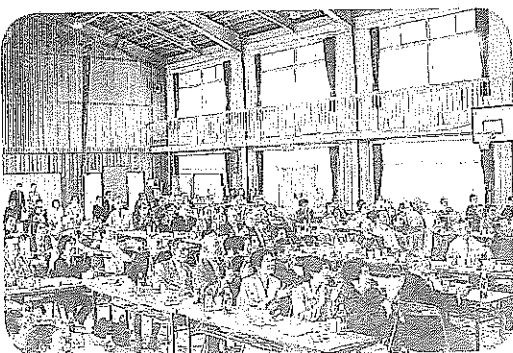
性が百九十六人です。当日は、天候にも恵まれ、送迎車や自家用車などで、百十七名の方にご出席をいただきました。

開会行事では、主催者を代表して来原コミュニティ連絡協議会長の開会の挨拶に続き、来賓として河井衆議院議員、児玉県議、児玉市長、秋田市議、塚本市議より祝辞がありました。

午前の講演では、川根浄泉坊支坊の池田幸雄師より「お念仏をよろこぶ」と題して、人としてのあるべき生き方、歩むべき道について、わかりやすく熱のこもった講話をしていただきました。

又今回も昨年に引き続き、原田駐在所の黒澤茂さんから、防犯や交通安全等に関する具体的なお話をいただきました。平素から、地域の安全と防犯のために積極的なパトロールしておられ、住民や地域の活動にも積極的に関わって頂いていければこそ、身近な親しみやすいお話でした。

会食後は、来女木、原田それぞれの子ども神楽が披露されました。来女木が「八岐大蛇」を、原田が「塵倫」を、どちらも大人顔負けの見事な演技と舞で熱演し、敬老の皆さんも身を乗り出して盛んな声援と拍手を送っておられました。



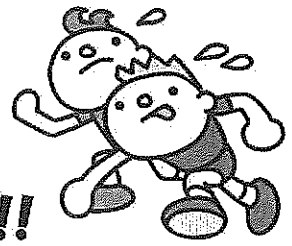
最後に、出席者を代表して、原田老人クラブ佐々木学会長より、謝辞が述べられました。せっかく原田と来女木で一緒に会をしたのに、しっかりと交流の時間が取れなかったのではないかと、楽な姿勢でくつろいでいただけたか、など反省点も多いのですが、皆様のお元気なお姿に、お世話させていただいた我々の方が却って励まされました。これからも益々お元気で充実した日々をお過ごしいただき、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、会の開催、運営にあたり、関係者を始め、たくさんの方のお力添え、ご協力をいただきましたことに厚くお礼を申し上げます。

# 第38回 高宮駅伝開催される!

## 原田Aチーム

## 2連覇!!



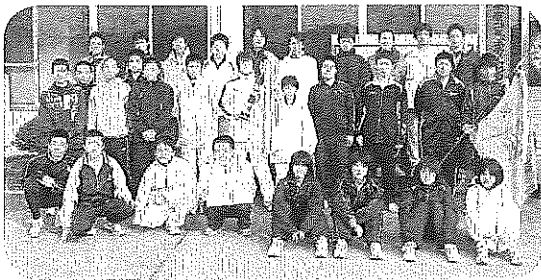
高宮の地に本格的な冬の到来を告げる、恒例の第38回高宮駅伝競走大会が去る12月2日(日)総勢16チームが参加して開催されました。午前10時に船木をスタートし、ゴールの川根までの11区間(30.1km)でタスキが受け継がれました。

来原地域からは5チーム(原田 3チーム・来女木ひまわり会 2チーム)が出場し、日頃の練習の成果を十分に発揮した各チームの選手は、走ることへの楽しさとあわせて好成績をおさめました。また、中継所では地域役員の皆さんによる「湯茶の接待」が行われ、沿道での選手への声援とあわせ地域ぐるみの行事となりました。

チーム名	原田A	原田B	来女木ひまわりA	来女木ひまわりB	原田C
順位	第1位	第9位	第13位	第14位	オープン参加
区間					
1	川本 勝	猪掛 源也	丸山 真治	田中 誠	荒川 裕
2	藤光 有里	岩崎 千穂	児玉 浩	高杉 里奈	川森 博継
3	清水 成美	中崎 翔子	上杉 周平	元村 彩	清水 大貴
4	遠野友裕希	末田 和也	上川 真治	出張 一樹	山田 晋吾
5	松長 将一	岡野 翔也	岡田 雅彦	川上 草平	平畝 力
6	山田 貴寛	遠野 淳	伊藤 武	中村 克久	松長 将弘
7	山縣 和也	猪掛 詩絵	中村 勇司	児玉 淑将	猪掛 公詩
8	高野 翼	竹内 豊	朝原将太郎	小笠原 誠	遠野 竜志
9	松浦 歩	山縣 拓也	三戸 勇二	児玉 晃	岩崎 政祝
10	小早川 功	上野 将	伊藤 潤治	伊藤 良治	有間 佑樹
11	猪掛 真詩	遠野 弘典	森光 優	岩崎 猛	山田 圭亮

★原田Aチーム“優勝”おめでとうございます。

選手の皆さん大変お疲れ様でした。



優勝旗を手に記念撮影



駅伝終了後は焼き肉で打ち上げ

### お知らせ

プラタナスの鍵の管理については、JA来原給油所さんにお願しておりましたが、美土里町横田の宮農総合センター前へ移転されましたので、共栄建設さんに管理をお願いしました。  
また、利用の申し込みは、引続き公衆トイレのカレンダーへ記入をお願いします。

### ..... 区間賞・特別表彰の方は次のとおりです。 .....

#### 一般の部

- 3区 原田A 清水 成美
- 6区 来女木ひまわりA 伊藤 武
- 8区 来女木ひまわりB 小笠原 誠

#### 学生の部

- 1区 原田A 川本 勝 ※区間新
- 4区 原田A 遠野 友裕希
- 5区 原田B 岡野 翔也 ※区間新
- 8区 原田A 高野 翼 ※区間新
- 10区 原田A 小早川 功 ※区間新
- 11区 原田A 猪掛 真詩 ※区間新

#### 女性の部

- 2区 原田A 藤光 有里 ※区間新

#### 40歳以上の部

- 2区 来女木ひまわりA 児玉 浩
- 6区 来女木ひまわりA 伊藤 武
- 10区 来女木ひまわりB 伊藤 良治

#### 特別表彰

- 15回出場 岡田 雅彦、荒川 裕
- 20回出場 岩崎 猛、伊藤 良治
- 15回監督賞 岡田 正三



女子プロゴルフ選手権大会を  
歓迎してフロンターを設置

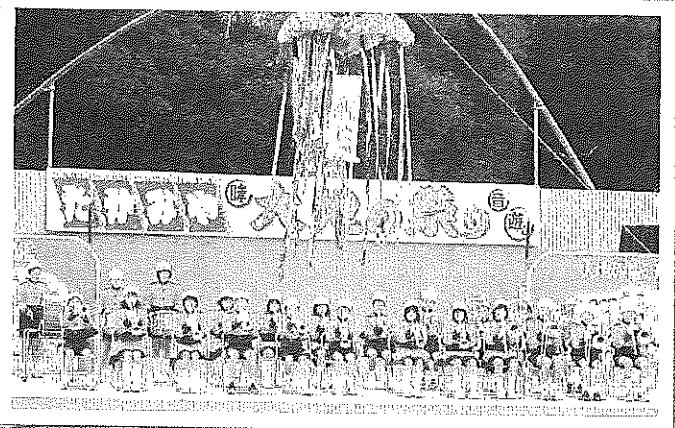
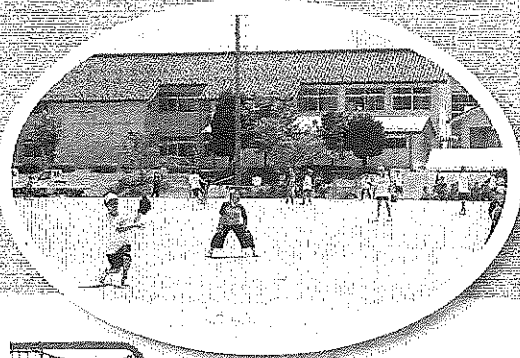


とんぼ(後岡城集落)

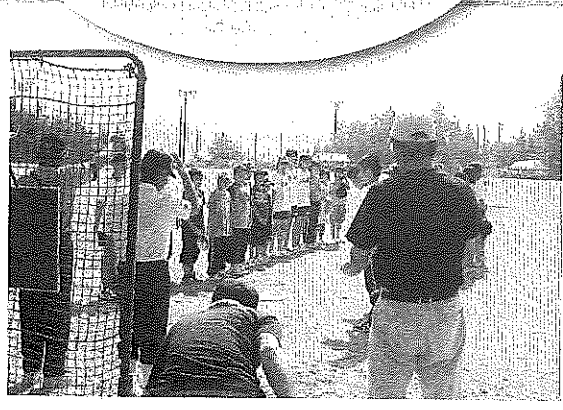


2007下半期

# スナック



たかみや大地の祭り



小学校区ソフトボール大会

## 篤志お礼

平成二十年一月十四日に亡く  
なられた遠野 毅さんのご遺族  
からコ連協に対し篤志をいただ  
きました。

## ☆コ連協等行事予定

- 2/10 第4回安芸高田市民フオー  
ラム(市民文化センター)
- 3/19 来原小卒業式
- 3/23 くるはらミニ駅伝競走大会
- 3/25 くるはら保育園卒園式
- 4/5 くるはら保育園入園式
- 4/7 来原小入学式

## 編集後記

▼広報「くるはら」第42号をお  
届けします。遅くなりました  
がご愛読ください。

▼12月31日、穴戸城集会所に取  
材に伺ったところ、そばをご  
馳走になりました。

出来ることを楽しくやってい  
こうという地域の若い力が、  
そのそばに込められているよ  
うな気がしました。こういっ  
た活動が他の集落に波及して  
いけばと思います。

▼編集にご協力を頂きました  
方ありがとうございました。

▼コ連協広報部では、地域の皆  
さんからのご意見や情報、記  
事、写真などの投稿、話題提  
供を心よりお待ちしております。